

RMC-400



取扱説明書

サポート窓口

株式会社エム・アンド・アイ ネットワーク DataVideoサポート係

〒104-0033

東京都中央区新川 2-1-7 セルコンスクエア

TEL:03-3552-7241 FAX:03-3552-7242

MAIL: mail@min.co.jp

URL: <http://www.datavideo.jp/>

目次

サポート窓口	1
内容物	3
概要	3
特長	3
システム接続例	4
各部の名称と機能	5
各モードの選択	9
Capture (キャプチャモード)	10
Trim (トリムモード)	11
Replay (リプレイモード)	12
Recall (リコールモード)	12
Menu (メニューモード)	13
編集したクリップを MOV ファイルで保存する	14
Capture and Replay (キャプチャとリプレイ)	14
保存したクリップを呼び出す	15
GPI 接続	16
ファームウェアアップデート	16
付録: T-Bar にて設定可能な速度の一覧	17
仕様	19

内容物

製品には以下の品物が梱包されています。不足している場合は販売店にお問合わせください。

番号	品名	数量
1	HDR-10 専用コントローラー RMC-400 (本体)	1
2	AC/DC 変換アダプタ(DC12V / 1.0A)	1
3	Mini USB - USB TypeA 接続ケーブル	4
6	取扱説明書(本書)	1

概要

RMC-400 Replay Control Center は、最大 4 台のインスタントリプレイマシン HDR-10 を制御するために設計されています。それは、ユーザーがスポーツやゲームの間に特定のシーンをキャプチャすることができ、特殊シーンがキャプチャされると、ユーザーは RMC-400 を使用してクリップを編集して再生することができます。

さらに、RMC-400 は、キャプチャされたシーンを HDR-10 のディスクに保存し、以前保存したクリップを再生する機能をユーザーに提供します。

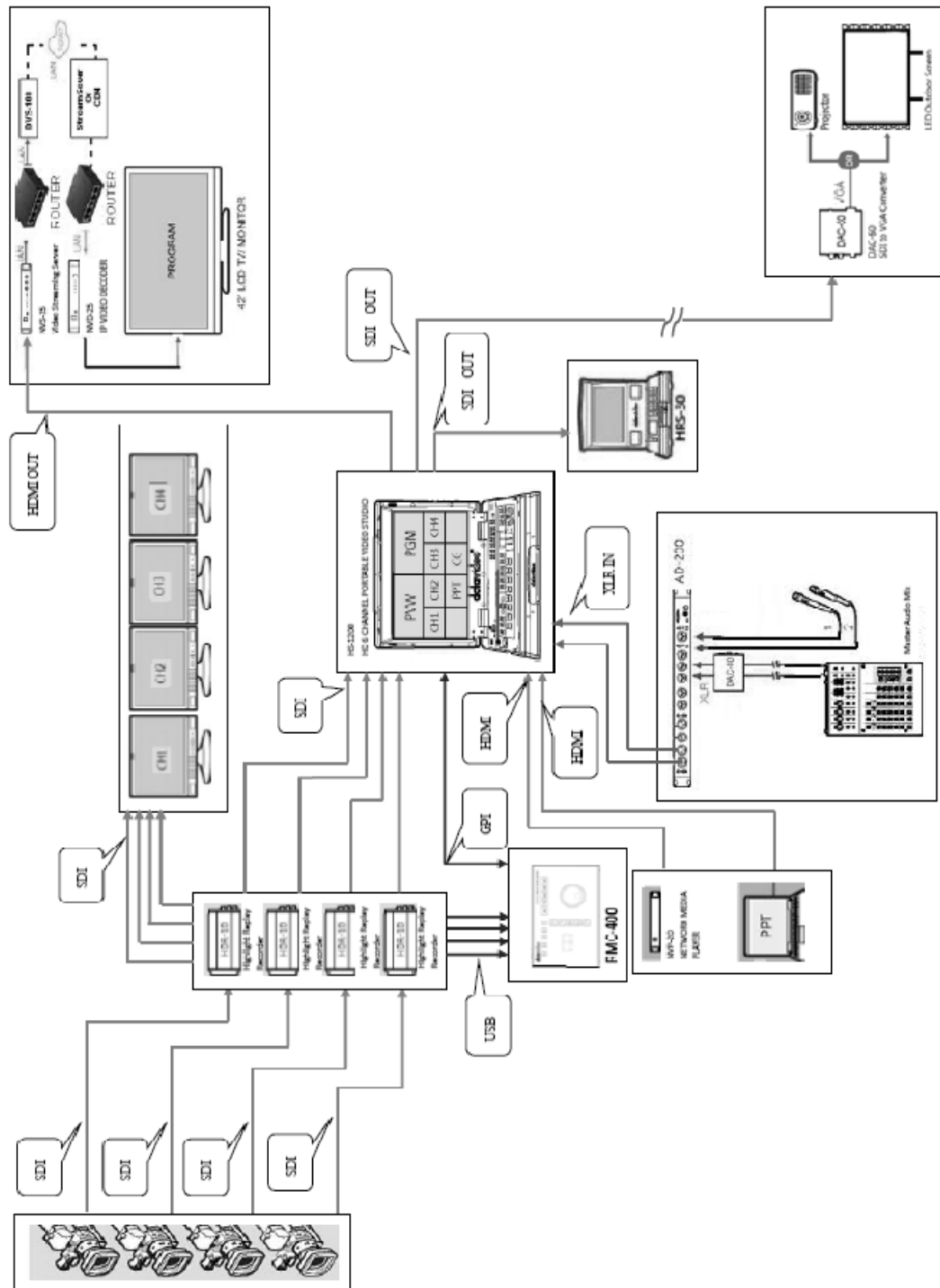
RMC-400 の T-Bar はハイライトされたビデオ映像を再生するための再生速度を設定します。
ジョグとシャトルホイールは現在編集中のクリップをブラウズすることができます。

RMC-400 コントローラーを接続すると、最大 4 台の HDR-10 デバイスを同期して制御できるだけでなく、柔軟性と効率性を高めながら特別なシーンをキャプチャ、編集、保存することもできます。

特長

- USB 経由で最大 4 台の HDR-10 リプレイユニットを同時に制御
- T-Bar は再生速度を 0% (停止した動き) から 400% (通常の再生速度の 4 倍) に調整する事が出来ます。
- ジョグホイールは、一時停止または速度が 0% のときのリプレイモードでのフレーム単位の動作設定が可能。
- シャトルホイールは、再生中に FFWD と REW を行うことができます

システム接続例



各部の名称と機能

リアパネル



POWER



メイン電源

本体のメイン電源スイッチ

+ DC IN 12V



DC 入力端子

DC ソケットは、付属の 12V AC アダプタを接続します。

接続は、DC In プラグの外側固定リングをソケットにねじ止めすることによって確保できます。

TO REPLAY RECORDER



mini-USB 端子

最大 4 台の HDR-10 リプレイレコーダーとの接続が可能です。

DEV1～DEV4 の各ポートは、デバイス有効化ボタンと対応しています。

GPI



GPI 端子

GPI インタフェースを使用すると、スイッチャーなどの他の外部デバイスに接続して再生をトリガーすることができます

F/W UPGRADE



ファームウェアアップデート

USB タイプファームウェアをアップグレードするためのポート。手順については、ファームウェアアップグレードを参照してください。

コントロールパネル



デバイス有効化ボタン

“DEV 1~4”ボタンを押して、制御する HDR-10 デバイスを選択します。

無効にするにはもう一度ボタンを押してください。(複数デバイスの同時接続時のみ)



ALL ボタン

ALL ボタンを押すと、すべてのデバイスが有効になり、同時に 4 つまでの HDR-10 レコーダーを制御することができます。



キャプチャモード

「キャプチャ」ボタンを押してキャプチャモードにします。



トリムモード

目的のシーンがキャプチャされた後、

“TRIM”ボタンを押して編集するトリムモードに入ります。



リプレイモード

REPLAY ボタンを押すと、HDR-10 レコーダーデバイスが再生モードに入ります。



リコールモード

「RECALL」ボタンを押すとオンスクリーン・リコール・メニューが開き、ユーザーはリプレイのためにクリップを取り出すことができます。選択したクリップを再生するか、選択したクリップを現在の再生クリップに追加するかを選択できます。



メニューモード

オンスクリーンメニューを開くには、この「MENU」ボタンを押してください。

オンスクリーンメニューの詳細はメニュー項目を参照下さい。



プレイ / ポーズボタン

リプレイモードとトリムモードでは、

このボタンを押してクリップの再生を開始/一時停止します。



マークイン / 決定ボタン

キャプチャモードとトリムモードでは、

このボタンはクリップの開始点をマークします。

リプレイモードでは、このボタンは無効になっています。

リコールモードとメニューモードでは、このボタンは選択を確定するための「決定」ボタンとして機能します。



GO TO MARK / SHORT ボタン

トリムモードでは、「GO TO MARK」ボタンは、「Go To Marker」モードと「Drop Marker」モードを切り替えます。このボタンは再生モードでは無効になっています。

キャプチャモードでは、このボタンは短い長さのクリップをすばやくキャプチャするための「SHORT」ボタンとして機能します。たとえば、「SHORT」ボタンが 4 秒に設定されている場合、このボタンを押すと、最新の 4 秒のビデオがキャプチャされます。SHORT ビデオキャプチャの時間は、オンスクリーンメニューで設定できます。設定の詳細については、メニュー項目を参照してください。



MARK OUT / MEDIUM ボタン

トリムモードでは、「MARK OUT」ボタンがクリップの終点をマークします。再生モードでは、このボタンは無効になっています。

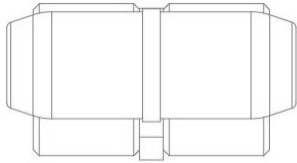
キャプチャモードでは、このボタンは「MEDIUM」ボタンとして機能し、中程度の長さのクリップをすばやくキャプチャします。たとえば、「MEDIUM」ボタンが 7 秒に設定されている場合、このボタンを押すと最新の 7 秒のビデオがキャプチャされます。MEDIUM 長のビデオキャプチャの時間は、オンスクリーンメニューで設定できます。設定の詳細については、メニュー項目を参照してください。



SAVE CLIP / LONG ボタン

トリムモードでは、「SAVE CLIP」ボタンは現在のキャプチャしたクリップを保存します。再生モードでは、このボタンは無効になっています。

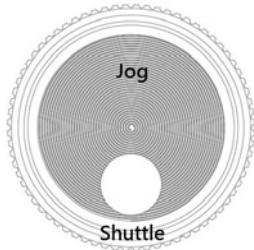
キャプチャモードでは、このボタンは長いクリップをすばやくキャプチャするための「LONG」ボタンとして機能します。たとえば、「LONG」ボタンが 14 秒に設定されている場合、このボタンを押すと最新の 14 秒のビデオがキャプチャされます。LONG ビデオキャプチャの時間は、オンスクリーンメニューで設定できます。設定の詳細については、メニュー項目を参照してください。



T-Bar

T-Bar はリプレイ再生のスピードを設定します。
速度は 0%~400%の範囲です。
リプレイおよび TRIM モードでは、T-Bar を希望の速度に対応する位置に設定します。
T-Bar は一番手前側が速度 0%で上に移動するに従ってスピードが上がって行きます。

また、クリップの再生中に T-Bar の位置を調整することで、クリップの再生速度を変更することもできます。



Jog / シャトルノブ

トリムモードと一時停止時のリプレイモードでは、ジョグとシャトルホイールを使用してカーソルの位置を調整できます。
シャトルホイールは、1 倍速、2 倍速または 4 倍速で早送りまたは巻き戻しを行います。
ジョグホイールは、フレームごとにカーソル位置を微調整します。

リコールモードとメニューモードでは、ジョグホイールを使ってオンスクリーンメニューをブラウズします。

各モードの選択

* 予め HDR-10 の AUX 出力端子にモニターを接続しておく必要があります。

HDR-10 レコーダーには 5 つのモードがあり、3 つのメインモードと 2 つのメニュー構成があります。3 つのメインモードが以下の順序で表示されます。

キャプチャモード : Capture Mode

ライブアクションを監視して、ハイライトシーンにフラグを付ける事が可能になります。

トリムモード : Trim Mode

ハイライトシーンを編集する事ができ、記録シーンを保存する事が可能になります。

リプレイモード : Replay Mode

選択されたハイライトシーンをプログラム OUT 端子より再生する事が可能になります。

* これらの 3 つのモードを迅速に動作させる為に、RMC-400 には、専用のボタンが用意されています。

リコールモード : Recall mode

保存されたクリップを選択し、単一のクリップまたは追加されたクリップとして再生するモード。このモードではメニューから項目を選択します。

メニューモード : Menu Mode

RMC-400 に接続されている複数の HDR-10 を設定できるモードです。このモードではメニューから項目を選択します。

Capture（キャプチャモード）

HDR-10 は、最初に電源を入れると自動的にキャプチャモードに入ります。
このモードは「CAPTURE」ボタンを押しても選択できます。

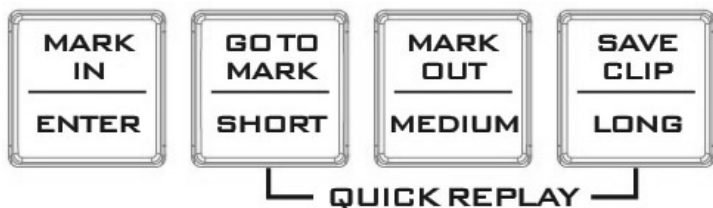


キャプチャモードでは、ビデオは内蔵システムメモリバッファにのみ保存されます。
このメモリは、AUX 端子より出力される映像のディスプレイ下部に赤色のバッファラインを示します。

1080p では、**最大 385 フレーム (12.6 秒)**をメモリバッファに格納できます。
1080i では、**最大 770 フレーム (25.7 秒)**をメモリバッファに格納できます。
720p では、**最大 1712 フレーム (28.5 秒)**をメモリバッファに格納できます。

メモリバッファが一杯になるとバッファラインが止まり、HDR-10 はバッファスペースのリサイクルを開始します。
このリサイクル処理中は、HDR-10 に入力されている最新のビデオデータを保存するために、取り込まれた古いビデオフレームから上書き処理を行います。

キャプチャモードでは、次のボタンが赤く表示され、ユーザーはビデオキャプチャ操作を実行できます。



「MARK IN」ボタンは、特定の再生クリップの開始点を設定する開始キューをドロップし、再生される可能性のあるビデオハイライトの開始点をマークします。

「SHORT」、「MEDIUM」、および「LONG」ボタンを押すと、これらの 3 つのボタンに予め設定しておいた記録時間をキャプチャします。
これらの 3 つのボタンの記録時間設定は、OSD メニューのクイックプレイ設定オプションで設定できます。

「MARK IN」ボタンを押すと、赤色のバッファラインに沿って黄色のダブルボックスマークが表示されます。
ユーザーがハイライトクリップ用に十分なビデオをキャプチャした後、
「TRIM」ボタンを押してキャプチャモードを終了し、クリップ編集のために TRIM モードに入ります。

*** キャプチャ時は常に内蔵バッファメモリを使用して常に上書き動作をしています。
BIN ヘクリップを保存する時のみディスクを使用します。**

Trim (トリムモード)

「TRIM」ボタンを押すとキャプチャモードが終了し、HDR-10 はトリムモードに入ります。トリムモードでは、バッファラインは赤色から緑色に変わります。これにより、モードが変更されたことがわかります。



トリムモードでは、次のボタンが緑色に変わり、キャプチャモードでキャプチャしたクリップを確認、編集、保存することができます。



「GO TO MARK」ボタンはマークドロップモードと GoTo マークモードを切り替えるためのボタンです。画面上部に表示されているステータスバー右側の表示が「DROP」もしくは「GOTO」となり、現在のモードを確認できます。

ドロップモード中に再生ボタンを押し「MARK IN」ボタンを押して IN 点をマーカードロップします。さらにカーソルは進んでいきますので「MARK OUT」ボタンで OUT 点をマーカードロップすることができます。「GO TO MARK」ボタンを押して GoTo モードに移動すると「MARK IN」ボタンを押すと IN 点に、「MARK OUT」ボタンを押すと OUT 点に迅速に再生点に移動する事ができます。

トリムモード中に手動でシークするには、ジョグとシャトルホイールを回転させます。シャトルホイールを使用すると、1 倍速、2 倍速または 4 倍速で早送りまたは巻き戻しできます。ジョグホイールを使用して、フレームごとにキューマーカーの位置を微調整します。

「SAVE CLIP」ボタンを押すと、圧縮されていない MOV ファイルとしてリムーバブルメディアに保存されます。

* ひとつの BIN に最大 99 のクリップを保存できます。

* BIN は最大 99 個作成することができます。

Replay (リプレイモード)

トリムモードを終了するには、RMC-400 の「REPLAY」ボタンを押して、HDR-10 を再生モードにします。



モニター画面下部のバッファラインの色が青色に変わり、モードが変更されたことがわかります。

リプレイモードでは、以下の図の「再生/一時停止」ボタンを押して、クリップの再生および一時停止します。



T-Bar は、AUX 出力画面の上部にあるステータスバーに表示されるリプレイ再生のスピードを設定します。Tバーを前後に動かして再生速度を調整します。

また、メニューモードで LOOP PLAY オプションを有効にすることで、リプレイクリップをループ再生することができます。リプレイクリップの繰り返しを止めるには、LOOP PLAY を OFF に設定するだけです。

**ファイルを保存するまでは 内蔵バッファメモリ上でリプレイを行います。
キャプチャモードに切り替えるとバッファメモリはクリアされてしまいますのでご注意ください**

Recall (リコールモード)

以前に保存したクリップを呼び出すには、RMC-400 の「RECALL」ボタンを押して、AUX 出力ディスプレイのオンスクリーンメニューを開きます。



(ENTER)

このリコールモードでは、ジョグホイールを回してオンスクリーンメニューをブラウズし、「ENTER」ボタンを押して特定のオプションを選択します。

リコールモードのメニューオプションについては、下の表を参照してください。

SELECT CLIP	クリップの選択を開始するには、このオプションを選択します。これは、ジョグホイールを使用して使用可能なクリップ番号を繰り返して実行できます。
CLEAR AND RECALL	現在のメモリバッファの内容を消去し、選択したクリップを読み込みます。 (読み込み後はトリムモードに移行します)
RECALL APPEND	選択したクリップを既存のバッファ内容に追加して読み込みます。 (読み込み後はトリムモードに移行します)

Menu (メニューモード)

「MENU」ボタンを押すと、メインのオンスクリーンメニューが開きます。
このメニューは、AUX 出力ディスプレイの中央上部に表示されます。



(ENTER)

オンスクリーンメニューを参照するには、ジョグホイールを回して「ENTER」ボタンを押して、特定のオプションを選択します。もう一度「ENTER」ボタンを押すと、メインメニューに戻ります。

メインメニューのオプションは、以下の表に記載されています。

MENU Items	Parameters	Descriptions
SET TRIGGER	EXT / INT	GPI トリガー再生 : パルスのみ EXT : 有効 INT : 無効
SET LOOP PLAY	ON / OFF	選択クリップのループ再生をオンにします。
REPLAY MODE	MANUAL / AUTO	リプレイモードに入ったときに自動または手動のクリップ再生を決定します。 AUTO : クリップの自動再生 MANUAL : 「再生/一時停止」ボタンを押すとクリップの再生が開始されます。
QUICK PLAY SETUP	QUICKPLAY S XX sec	CAPTURE モード中に QUICK REPLAY ボタンを押したときの記録時間を設定します。S: SHORT、M: MEDIUM、L: LONG
	QUICKPLAY M XX sec	
	QUICKPLAY L XX sec	
SELECT BIN	BIN X	クリップを保存する BIN を選択します。
VIDEO FORMAT	720p50 720p59.9 720p60 1080i50 1080i59.9 1080i60 1080p50 1080p59.9 1080p60	ビデオフォーマットの選択 注: このオプションで選択された形式は、入力形式と一致する必要があります。
AUDIO SETUP	MONO STEREO QUAD	SDI 出力に重畳されるオーディオチャンネルの選択。 (リプレイモードにて速度 100%で再生したときのみ出力されます) MONO : モノラル 1ch STEREO: ステレオ 2ch QUAD : 4ch オーディオ
EMPTY CURRENT BIN	NO YES	YES を選択すると、現在の BIN に保存されているクリップが全て消去されます。
REVISION	CONTROL HDR SUB	ファームウェアバージョン番号を表示します。 CONTROL、HDR、SUB の 3 つの番号が表示されます。
SET MAX SPEED	100% 400%	リプレイモードでの再生速度の上限を設定します。
DATE & TIME	SET GMT SET RTC	SAVE CLIP を実行するときのファイルタイムスタンプ作成のために時刻を設定します。
TIMECODE	SET SOURCE	タイムコードのソースを設定します。 INT: 内部 TC SDI: 入力 SDI 信号に重畳されているタイムコード
	SET TIMECODE	タイムコードを設定します。
FORMAT MEDIA	NO YES	メディアをフォーマットするには、YES を選択します。
FIRMWARE UPGRADE	NO YES	この FIRMWARE UPGRADE メニューは、HDR-10 のファームウェアをアップグレードするためのものです。 RMC-400 のファームウェアアップグレード手順については、RMC-400 の取扱説明書をご参照ください。

編集したクリップを MOV ファイルで保存する

HDR-10 は、非圧縮 MOV ファイルとして、マークされたクリップ/ハイライトをリムーバブルディスクに保存する事が出来ます。

クリップの長さに応じて、ファイルサイズは最大 4GB まで大きくなります。

保存したクリップは、ユニットから再生したり、同じ SSD 上の他のクリップに追加することができます。

HDR-10 から取り外された SSD を使用して、保存されたクリップをノンリニア編集機等に転送することもできます。

1. HDR-10 と RMC-400 の電源を入れます。HDR-10 は自動的にキャプチャモードになります。
2. 「**MARK IN**」ボタンを押して開始キューを配置します。
3. キャプチャを停止するには、「**TRIM**」ボタンを押してキャプチャモードを終了し、トリムモードに入ります。
4. トリムモードでは、ジョグとシャトルホイールを使用してカーソルの位置を調整し、カーソルが対応する希望の位置で IN 点および/または OUT 点を配置します。
5. IN 点と OUT 点の位置が決定したら、「**SAVE CLIP**」ボタンを押してクリップを保存します。

注1) 現在の HDR-10 レコーダーデバイスにはクリップ名入力機能はありません。したがって、ユーザーは保存された各クリップをメモする必要があります。

注2) ビデオフォーマットが異なるクリップを同一の BIN に保存することはできません。異なるビデオフォーマットのクリップを同一のリムーバブルディスクに保存する場合は、ビデオフォーマットごとに BIN を別にしてください。

Capture and Replay (キャプチャとリプレイ)

1. HDR-10 と RMC-400 の電源を入れます。HDR-10 は自動的にキャプチャモードになります。
HDR-10 は、キャプチャモードに入ると自動的にキャプチャを開始します。
2. 「**MARK IN**」ボタンを押して開始キューを配置します。
3. キャプチャを停止するには、「**TRIM**」ボタンを押してキャプチャモードを終了し、トリムモードに入ります。
4. トリムモードでは、ジョグとシャトルホイールを使用してカーソルを調整し、開始キューおよび/または終了キューの位置を設定します。
5. 「**MARK IN**」ボタンを押して開始キューを配置し、「**MARK OUT**」ボタンを押して終了キューを設定します。
6. 開始点と終了点ポジションが決定したら、「**REPLAY**」ボタンを押してトリムモードを終了し、リプレイモードに入ります。
7. T-Bar にてクリップの再生速度を設定します。
8. リプレイモードが手動の場合、「**再生/一時停止**」ボタンを押してクリップの再生を開始します。
ただし、再生モードが自動の場合、クリップの再生が自動的に開始されます。
(再生モードの設定については

保存したクリップを呼び出す

1. RMC-400 コントロールパネルの「MENU」ボタンを押します。
2. ジョグダイヤルを回して、画面メインメニューの「SELECT BIN」オプションを選択し、「ENTER」ボタンを押してオプションに入ります。
3. 再びジョグダイヤルを回して「ENTER」ボタンを押して目的の BIN 番号を選択します。
4. BIN 番号を選択した後、「RECALL」ボタンを押すとリコールモードメニューが開き、BIN 番号とモニタの中央にあるステータスバーのクリップ番号が表示されます。
5. クリップの選択を開始するには「SELECT CLIP」を選択します。クリップの選択を開始するには、ジョグホイールを回して「ENTER」ボタンを押して、選択したクリップ番号を呼び出します。
6. 目的のクリップが選択された後は 現在のバッファ内容をクリアして選択クリップを読み込むか (Clear and Recall) または選択したクリップを既存のバッファ内容に追加するか (Recall Append) を選択します。
7. クリップがロードされると、HDR-10 は自動的にトリムモードに入ります。再生を開始するには、「REPLAY」ボタンを押してリプレイモードに移動してください。

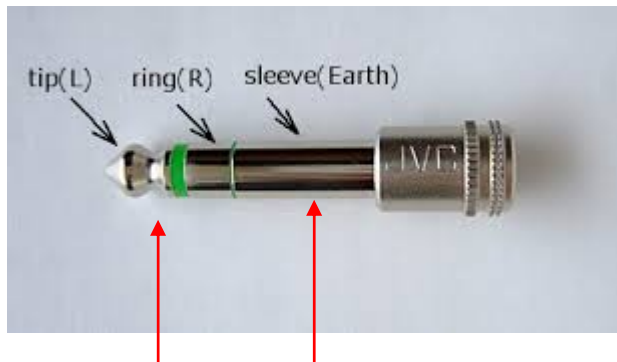
GPI 接続

RMC-400 は、GPI スイッチを介して外部 GPI トリガ信号で制御することができます。

GPI インターフェースは 3.5mm ステレオジャックで、RMC-400 のリアパネルにあります。ジャックプラグのチップ側とシールド側の接点接続で、ユーザーが選択したイベントをトリガします。電源は RMC-400 によって供給され、DC5V 未満です。

この GPI ソケットは、datavideo 製スイッチャー等の機器から GPI トリガを受信して再生イベントをトリガするソケットとしても使用できます。

注) RMC-400 に接続するために必要なケーブルは、独自に作成する必要があります。ケーブルを作成するにはご自身の責任の上で行ってください。詳細なアドバイスが必要な場合は、ご購入の販売店またはサポート窓口までご連絡下さい。



チップ側とシールド側をショートさせる事により GPI トリガが可能になります。

ファームウェアアップデート

Datavideo は新しいファームウェアをリリースして、不具合を修正したり機能を追加したりします。必要に応じてファームウェアをアップデートすることができますがこの方法をご希望の場合は、ご購入販売店またはサポート窓口までお問い合わせください。

このページでは、ファームウェアのアップデートプロセスについて説明します。完了するまでに数分かかる場合があります。

いったん開始されると、更新プロセスを中断させないでください。これにより、応答しなくなる可能性があります。

1. PC で USB フラッシュメモリを FAT32 形式でフォーマットします。
2. ファームウェアイメージファイル”rmc400.bin”をフォーマットされた USB メモリにコピーします。
3. RMC-400 の背面パネルにある”F/W UPGRADE”と書かれた USB ポートを確認します。
4. RMC-400 の電源が OFF の状態で、USB メモリを”F/W UPGRADE”USB ポートに挿入します。
5. そのままの状態電源を ON にすると、RMC-400 は自動でファームウェアの更新を行います。更新中は、各ボタンが順番に緑色に点灯します。
6. アップグレードが成功すると、すべてのボタンが緑色に点灯します。その状態で RMC-400 の電源を落とし、USB フラッシュメモリを取り外します。

注) アップグレードが失敗した場合、すべてのボタンが赤く点滅し始めます。また、緑点灯に変化しなかった場合は 2分程おいて最初からやり直してください。

付録:T-Barにて設定可能な速度の一覧

1080p 59.94		1080i 59.94		720p 60	
上限 100%	上限 400%	上限 100%	上限 400%	上限 100%	上限 400%
100	400	100	400	100	400
99	390	94	390	94	390
98	380	92	380	92	380
97	370	90	370	90	370
96	360	89	360	89	360
95	350	88	350	87	350
94	340	87	340	85	340
93	330	86	330	84	330
92	320	85	320	83	320
91	310	84	310	82	310
90	300	83	300	81	300
89	290	82	290	80	290
88	280	81	280	79	280
87	270	80	270	78	270
86	260	79	260	77	260
85	250	78	250	76	250
84	240	77	240	75	240
83	230	76	230	74	250
82	220	75	220	73	220
81	210	74	210	72	200
80	200	73	200	71	191
79	191	72	191	70	188
78	188	71	188	69	183
77	183	70	183	68	179
76	179	69	179	67	176
75	176	68	176	66	173
74	173	67	173	65	170
73	170	66	170	64	167
72	167	65	167	63	165
71	165	64	165	62	163
70	163	63	163	61	160
69	160	62	160	60	156
68	158	61	158	59	154
67	156	60	156	58	152
66	154	59	154	57	150
65	152	58	152	56	147
64	150	57	150	55	145
63	147	56	147	54	143
62	145	55	145	53	141
61	143	54	143	52	139
60	141	53	141	51	136
59	139	52	139	50	134
58	136	51	136	49	132
57	134	50	134	48	129
56	132	49	132	47	126
55	129	48	129	46	123
54	126	47	126	45	120
53	123	46	123	44	116

52	120	45	120	43	111
51	116	44	116	42	100
50	111	43	111	41	91
49	100	42	100	40	88
48	88	41	91	37	83
47	83	40	88	35	79
46	79	37	83	32	76
45	76	35	79	30	73
44	73	32	76	27	70
43	70	30	73	24	67
42	67	27	70	21	65
41	65	24	67	17	63
40	63	21	65	12	60
37	60	17	63	0	58
35	58	12	60		56
32	56	0	56		54
30	54		54		52
27	52		52		50
24	50		50		47
21	47		47		45
17	45		45		43
12	43		43		41
0	41		41		39
	39		39		36
	36		36		34
	34		34		32
	32		32		29
	29		29		26
	26		26		23
	23		23		20
	20		20		16
	16		16		20
	20		20		19
	19		19		18
	18		18		17
	17		17		16
	16		16		15
	15		15		14
	14		14		13
	13		13		0
	0		0		

(単位：%)

仕様



型番	RMC-400
インターフェース	GPI ポート × 1系統 Mini USB × 4系統 USB ポート × 1系統 (FW/Upgrade 用)
動作環境温度	0° C ~40° C
動作環境湿度	10%~80%(結露なし)
電源スイッチ	システムメインスイッチ (背面) × 1
寸法 / 質量	280mm(幅) × 60mm(高さ、T-Bar 含まず) × 192mm(奥行) 1.45 Kg (本体のみ AC アダプタ含まず)
電源	DC 12V / 5.5W
付属品	AC/DC 変換アダプタ (DC12V 1.0A) × 1 Mini USB -USB TypeA ケーブル × 4

※仕様及び外観は改良の為、予告なく変更する場合がありますのでご了承ください。